
あきらめない

ユウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
あきらめない

【Nコード】
N7946K

【作者名】
ユウ

【あらすじ】
彼との恋愛のスタート、彼の発病、2度の再発を経て得たもの。

私の彼は、今からちょうど3年前に精巣腫瘍になりました。当時、25歳でした。

その時はまだ、私は彼と出会ってはいませんでした。

その頃の私は社会人2年目、システムエンジニアの卵として日々仕事に夢中の日々でした。

今思えば、あの頃の彼にあの時出会っていれば、と心から思います。

精巣腫瘍とは、精巣の中にできる悪性腫瘍です。

10万人に2人という確立で発病するそうです。

そんな、宝くじと同じくらい希少なモノに、私の彼は発病してしまいました。

幸運なことに、発病時は転移は認められず、

片方の精巣摘出手術を受け、一か月弱の入院生活で無事退院をすることができました。

当時は、精巣が片方になったとしても、生殖機能は特段問題はないと言われたそうです。

そして、今後、転移する可能性は3割と言われたそうです。

その1年後、私は彼と出会い、お付き合いを始めることになりました。

付きあった当初は彼が癌を患ったことは知りませんでした。

そして彼と付き合うことになった1週間後、彼の癌は再発しました。それも、肺と骨に。

再発の予兆が見えてから、彼は私にこう言いました。

「俺の、変でしょ？」

「片方ないんだ」

「実は、癌だったんだ」

「もしかしたら再発したかもしれないんだ」

それを聞いた時、「癌？」

私の頭の中は真っ白でした。

今までの人生で真っ白になったことは何度もありましたが、比べものにならないくらい、何も考えられず、不安で不安で、心が折れそうになりました。

癌という病気はこれまでの自分の人生に於いて、全くの無関係な言葉でした。

まさか、こんなに近い人がましてやこんな病になるなんて。

嫌な予感ハ的中してしまうもので、彼の癌はあつという間に彼の体をむしばんでいきました。

出会った初日に彼から告白を受け、

その1週間後に付き合うことを決意し、

その1週間後に再発のことを聞かされました。

出会ってから2週間後に、彼は某大学病院に入院することになりました。

そして、精子の凍結保存、様々な検査を経て、抗がん剤治療が始まりました。

彼の受けた抗がん剤治療は「BEP療法」と呼ばれるもので、ブレオマイシン、エトポシド、シスプラチンの3剤を併用して癌細胞の組織を破壊するもの。

5日間抗がん剤の点滴したあとに骨髄抑制と呼ばれる白血球及び赤血球、血小板の減少が始まり、徐々に血球値が上がり、21日（3週間）を1クールとしてこれを4クール行います。

一般的に「抗がん剤」と呼ばれるものは、活発な細胞程ダメージを受けやすいとされています。

だからこそ、癌細胞が消滅するのです。ですが、その反面、日々細胞分裂を繰り返す髪の毛や髭、そして生殖機能が相当なダメージを受けることになります。だから、髪が抜けるのです。

抗がん剤治療がスタートする際、担当医師より抗がん剤治療について、

副作用についての説明会がありました。

5年生存率、生殖機能についての記載もありました。

何もかもが残酷すぎる現実で、私の未熟な心は何度も何度もペしゃんこになり、

泣いてばかりの毎日でした。

もちろん、私の両親からは猛反対されました。

娘のこれからの人生を考えた上で、付き合いをやめてほしいのが正直な気持ちだったと思います。

でも、それでも、私は彼を見捨てて別の人生を歩むことを、もう考えられなくなっていました。

再発がわかった時、猛烈な痛みの中で、彼が私にこう言いました。

「俺のせいでコウを苦しませたくない。付き合ってすぐにこんな病

気になっちゃって、
それでもついてきてくれる人なんて普通いないよ。ユウは責任を感じなくていいんだよ。
だから、どうか、ユウには俺のことは気にせず、ユウの好きなように生きてほしい。」

その時の私は彼とこのまま付き合っていくべきなのか、正直悩んでいました。

でも、この彼の精一杯の温かい気持ちを受け止めてから、私の気持ちは一つに決まりました。

彼をこれ以上苦しめたくない、私が幸せにしてあげたい。

私は両親に自分の正直な気持ちを精一杯の気持ちで伝えました。

母が夜中に泣いていたのも知っています。

それでも、心を決めた娘に、母はこう言ってくれました。

「ユウちゃんには幸せになってほしい。まだ心から応援する気持ちにはなれないけど、

でも、ユウちゃんが、彼についていきたいと思える子に育ってくれてよかった」

この言葉を、母はどんな気持ちで私に伝えたのか、それを思うと、涙が出てきます。

私は、彼と一緒に3カ月の抗がん剤治療に立ち向かう覚悟を決めました。

抗がん剤治療は想像を絶する過酷な治療でした。

まずは「吐き気」

そして「脱毛」「貧血」

4クールが終了するまで、彼は何回も何回も嘔吐し、
しまいには食道が切れ、血を吐くまでになってしまいました。
髪は抜け落ち、体重も12キロ減りました。

でも、癌細胞に打ち勝ちました。

2008年7月30日に無事退院。

計、3カ月半の辛い闘病生活に終止符を打ちました。

それからというものの、失った日々を取り戻すかのように、
私たちは色々なところに出かけました。

ずつと行きたかったデイズニールンド、シーにも行きました。
素敵なレストランで食事もしました。

温泉にも行きました。スノーボードにも行きました。

翌年春には日光に行き、

夏には初の海外旅行でタイにも行きました。

そして、2009年8月16日、私の27歳の誕生日に
思い出の地でプロポーズをしてくれました。

あんなに辛い思いをしたんだもん、

これから先の人生、きつと、幸せなことしか待っていないよね。
私たちはそう確信していました。

何も、誰も、疑うことはありませんでした。

2009年12月の定期検査、彼の体調も良く、

もう一年半もたつし、そろそろ安心していいね。
主治医の先生はそう言ってくれました。

ですが、またあの悪夢はやってきました。

2010年1月4日未明、彼が原因不明の背中 of 激痛で
急遽大学病院にかかったところ、主治医の先生含め、たくさんの先
生の診断では

「風邪だろう」ということでした。

先月検査をしたばかりだったし、こんなに短期間で再発はまず考え
られない、

もう少し様子を見ましよう、ということでした。

私は嫌な予感がしました。

だって、痛み方が前回と一緒だったから。

血液検査の結果、ある値が前回と同じように上がっていたから。
微熱が続いていたから。

彼の痛み方は尋常ではなく、一時は息もできないくらいの痛みだ
ったそうです。

1月9日は、私たちの新居への引っ越しが決まっていました。
ですが、またもや、1月8日の未明、痛みに我慢できず、救急で病
院にかかりました。

引っ越しは私の家族及び彼のご家族総出で行いました。

ようやく新居に引っ越し、まさにこれからという時、
1月15日に定期検査で主治医の先生のもとへ訪れた時に、
まさかの再発を告知されました。

今回は骨髓でした。

前回再発した時、完全に消えなかったほんの小さな細胞が、今度は骨髓に転移してしまったそうです。

骨髓で癌細胞が増殖するため、背中に激痛が走り、正常な血液が作られにくい体になっていたから、熱も下がらず、貧血気味になっていたようです。

1月30日の彼の誕生日に、私たちは入籍をするはずでした。結局、病室で彼と、手作りチーズケーキでお祝いしました。

入籍は、退院の日に、一緒に二人でしようねと二人で決めたのです。私たちは、また頂上が見えない山を登ることになりました。

今回はTIP療法といって、パクリタキセル、イフォスファミド、シスプラチンの3剤を使用し、

前回と同様に、1クール21日周期で4クールを行う治療スケジュールになりました。

今回も、終わりのない吐き気と脱毛、骨髓抑制には悩まされることになりましたが、

彼は本当に頑張っています。

今まさに4クール目の中盤というところです。

前回もそうでしたが、今回も、彼は、一言も弱音を吐きませんでした。

普通、人は、このような状況におかれたら、「大丈夫？」と聞かれたら

「大丈夫なわけないよ」と言ってしまうだろうし、「辛い？」と聞かれたら

「辛いに決まってるじゃん」と言っちゃいます。

でも、私の彼は、

「自分が辛い表情や悲しい顔をしたら、周りの人が悲しむでしょ、そんなの一番嫌だもん。自分が辛いならいくらでも我慢できるけど、自分の大切な人たちが悲しむのだけは絶対に嫌だ。だから俺ができることといったら

せめて笑顔で前向きにすること。一生懸命ごはんを食べること。

吐かないようにすること。将来のために勉強すること。友達を大事にすること。

ユウに感謝すること。」

そう言ってくれました。

私は心の底から、この人を選んで間違いではなかった、この人を選んで

本当に良かったと、そう思いました。

春はもうそこまできています。

今月中には退院もできそうです。

あんなの無理だと思っていた険しい山だったけど、今は9合目までできています。

10月には、延期にした結婚式を控えています。

私は、必ず、彼を幸せにしてみせます。

これ以上辛い思いなんかさせたくない。
彼とのこれからの人生は、キラキラした
笑顔いっぱい的人生であると思います。

命って、本当に当たり前のものではありません。
大切な人との未来は、決して当たり前のものではないのです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7946k/>

あきらめない

2010年10月9日07時22分発行